

# 日本気象学会

## 昭和63年度春季大会

会期：昭和63年5月18日（水），19日（木），20日（金）  
 会場：柏市民文化会館（柏市柏下 107）TEL. (0471) 64-9141  
 柏市勤労会館（柏市柏下 66-1）TEL. (0471) 67-1861

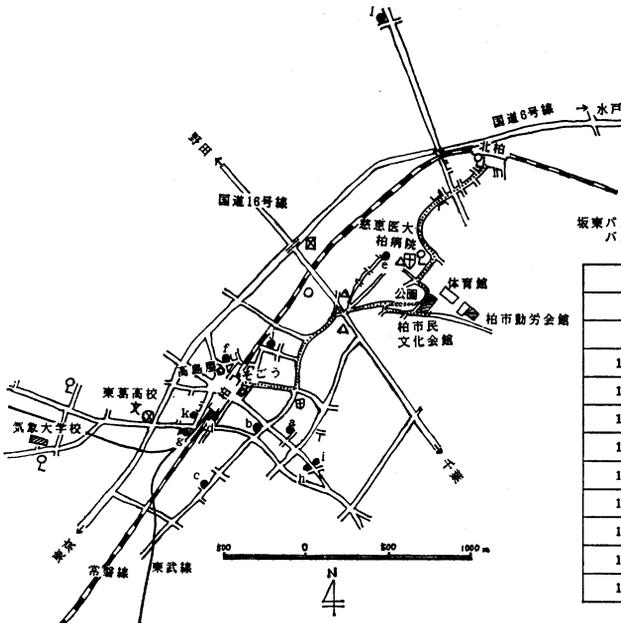
### 目次

会場案内..... 273  
 大会行事予定表..... 274  
 総会次第..... 274  
 研究発表内容一覧表..... 275  
 シンポジウム内容..... 276  
 研究発表題目..... 277~285

### 会場案内図

交通案内：

- (1) 北柏駅南口下車，慈恵医大柏病院行きバス乗車（1区間，料金110円）  
下車後徒歩5分  
駅から徒歩の場合15分，タクシーで約5分（料金470円）
- (2) 柏駅東口下車 徒歩20分，タクシーで約10分（料金470~550円）



坂東バス 北柏→慈恵医大柏病院行（料金110円）  
 バス時刻表（北柏発）

62.12現在

7	31	45	58
8	13	27	43 57
9	14	31	46 57
10	11	23	36 49
11	11	24	35 48
12	11	24	37 50
13	11	24	35 48
14	11	23	36 47
15	00	13	26 47 59
16	12	23	36 53
17	11	24	37 50
18	03	16	30 44 59

## 大会行事予定

1. 会場：柏市民文化会館（電話 0471-64-9141）  
 柏市勤労会館（電話 0471-67-1861）  
 第1会場：文化会館大ホール  
 第2会場：文化会館小ホール  
 第3会場：勤労会館会議室  
 ポスター・セッション：文化会館ロビー
2. 会期：5月18日（水）、19日（木）、20日（金）

行事			
大会（研究発表）	（第1, 2, 3会場）	5月18日（水）	9:30~12:30 13:30~16:30
大会（ポスター・セッション概要紹介）	（第1, 2, 3会場）		16:30~16:45
大会（ポスター・セッション）	（文化会館ロビー）		16:45~17:30
大会（研究発表）	（第1, 2, 3会場）	5月19日（木）	9:15~12:00
総会	（第1会場）		13:00~13:30
学会賞・藤原賞受賞記念講演	（第1会場）		13:30~15:15
シンポジウム	（第1会場）		15:30~17:30
懇親会	（気象大学校）		18:00~
大会（研究発表）	（第1, 2, 3会場）	5月20日（金）	9:15~12:30 13:30~17:30

## 総会次第

1. 開会の辞
2. 議長選出
3. 理事長挨拶
4. 学会賞授与
5. 藤原賞授与
6. 昭和62年度事業経過報告
7. 昭和62年度会計決算報告
8. 昭和62年度会計監査報告
9. 昭和63年度事業計画案・予算案の審議
10. その他
11. 閉会の辞

なお、総会に引き続き学会賞受賞記念講演および藤原賞受賞記念講演を行う。

## 昭和63年度春季大会

( ): 講演番号, — : 座長

	第 1 会 場	第 2 会 場	第 3 会 場	
5月18日 (水)	9:30~ 12:30	雲物理・積雲対流 I (101~115) —村上正隆—	小気候・大気汚染 (201~213) —若松伸司—	気象力学・惑星大気 (301~317) —辻村 豊—
	13:30~ 16:30	雲物理・積雲対流 II (116~130) —松尾敬世—	エクマン境界層・局地循環 (214~228) —栗田 進—	気候 (318~332) —川村隆—
	16:30~ 17:30	ポスター・セッション (各会場で概要紹介後, 文化会館ロビーで講演) P101~P105, P201~P203, P301~P305)		
5月19日 (木)	9:15~ 12:00	エアロゾル (131~143) —高村民雄—	接地境界層 (229~240) —三上正男—	解析・数値計算手法 (333~339) —増田耕— 測器・観測手法 I (340~345) —石原正仁—
	13:00~ 13:30	総会		
	13:30~ 15:15	学会賞・藤原賞記念講演		
	15:30~ 17:30	シンポジウム		
5月20日 (金)	9:15~ 12:30	中層大気 (144~153) —松田佳久— 総観規模現象 (154~159) —万納寺信崇—	大気大循環 (241~256) —佐藤信夫—	放射・大気電気 (346~361) —塩原匡貴—
	13:30~ 17:30	中小規模現象 (160~179) —猪川元興—	熱帯気象・台風 (257~267) —嶋村 克— 熱帯気象・気候 (268~277) —鬼頭昭雄—	大気化学 (362~373) —土器屋由紀子— 測器・観測手法 II (374~380) —笹野泰弘—

注) 大会参加費 会員 1,000 円, 学生会員 500 円, 一般 1,500 円

## 講演発表者へのお知らせ

1. 第1, 第2, 第3会場ともオーバーヘッド・プロジェクター使用可能です。
2. 講演時間は質疑を含めて12分以内です。スライド標準枚数は6~8枚です。
3. スライドのマウントに番号をつけ, 上下を揃えて下さい。
4. ポスター・セッションの方法については「天気」12月号 (p.776) を参照して下さい。  
またポスターに表題と発表者名を明記して下さい。

## シンポジウム「生態系と気候変動」

1. 日 時 大会第2日(5月19日) 15:30~17:30
2. 会 場 第1会場(文化会館大ホール)
3. 座 長 安田延壽・和田美鈴(気大)
4. 話題提供者  
 森山 茂(日大): 生命の存在と地球環境の生成  
 近藤純正(東北大): 植生地の顕熱・潜熱輸送のパラメータ化  
 三上正男(気研)・安田延壽(気大): 森林草地, 半乾燥地からの蒸発散量  
 山崎孝治(気研): GCM を用いた生態系の気候形成における役割の研究  
 最後に総合討論を行う

## 研究会のお知らせ

大会に合わせて下記の研究会が行われます。興味のある方はご自由にご参加下さい。

1. 金星大気力学観測サブワーキンググループ第2回会合  
 日 時: 5月18日 17:30~18:30  
 会 場: 第2会場(予定)  
 テーマ: 金星下層大気浮遊気球計画の進捗状況および意見交換  
 問合せ先: 〒753 山口市大字吉田1677-1  
 山口大学教育学部 山中大学  
 (電話 0839-22-6111 内線 697)
2. 第2回「梅雨研究会」  
 日 時: 5月21日(土) 9:00~12:30  
 会 場: 東京大学理学部地球物理学教室 大講義室  
 テーマ: 梅雨前線上の中間規模(meso- $\alpha$ スケール)降水系と小低気圧の特徴  
 と形成維持機構(くわしいことはP285参照)  
 問合せ先: 〒464-01 名古屋市千種区不老町  
 加藤内蔵進(名古屋大学水圏科学研究所)  
 (電話 052-781-5111 内線 5742)

当大会予稿集に掲載された研究発表の文章・図表を複製あるいは翻訳して利用する場合には、日本気象学会の文書による利用許諾を得た上で出所明示して利用しなければなりません。ただし著作者自身による利用の場合は、利用許諾の申請は不要です。

# 研究発表題目

大会第1日(5月18日) 9時30分~12時30分

(\*印は発表者)

## 第1会場 雲物理・積雲対流 I

座長 村上正隆

101. \*磯野謙治(名大), 小林寿太郎(気象協会), 権田武彦(東理大・理工), 佐粧純男(スガ試験機): 降雪実験鉛直風洞——雪片の形成過程の研究と積雪工業材料の試験のための——
102. \*上田 博・菊地勝弘・谷口 恭(北大・理), 遠藤辰雄(北大・低温研): 12花の雪結晶の観察と成因についての考察
103. \*横山悦郎・黒田登志雄(北大・低温研): 結晶成長におけるパターン形成Ⅲ
104. \*佐藤 節・播磨屋敏生(北大・理): 降雪現象における雲粒捕捉成長過程の寄与率Ⅱ. 気象条件及び積雲の Life Cycle による寄与率の相違
105. \*高橋庸哉・遠藤辰雄・若濱五郎(北大・低温研), 福田矩彦(ユタ大): 雪結晶の成長と ventilation 効果について
106. 山下 晃・小西啓之・\*島田 互(大阪教育大): 人工雪(針状)の昇華蒸発実験
107. 佐藤 昇(大阪府科学教育センター): 近畿周辺での降雪粒子の観測
108. 大竹 武(アラスカ大): 融解層での降水粒子
109. 松尾敬世・村上正隆・水野 量・山田芳則(気研・物理): 層状性降水雲の特殊ゾンデ(HYVIS)観測Ⅰ. 融解層付近の降水現象
110. \*山田芳則・松尾敬世・村上正隆・水野 量・柿原 均・青柳二郎・松浦和夫・鈴木 修(気研): 層状性降水雲の特殊ゾンデ(HYVIS)観測Ⅱ. 氷晶の衝突成長
111. 村上正隆・松尾敬世・水野 量・山田芳則(気研・物理): 層状性降水雲の特殊ゾンデ(HYVIS)観測Ⅲ. Warm-frontal clouds の微物理構造と降水形成過程
112. 田中豊顕・WCRP 気象研雲粒子観測班(気研): 雲粒子ビデオ顕微鏡で見た層積雲の雲水量
113. \*藤井雅晴・菊地勝弘・城岡竜一・吉田 晋(北大・理): 層積雲の雲底構造の解析
114. \*今須良一・岩坂泰信(名大・水圏研): ハローを伴う雲のライダー観測

115. \*今須良一・岩坂泰信(名大・水圏研): レーザ・レーダによる Cirrus の観測: I

## 第2会場 小気候・大気汚染

座長 若松伸司

201. \*小林 守・櫛間俊博(筑波大): 都市地表面における下向長波放射分布の測定
202. \*中川清隆(上越教育大・自然), 小沢詳吾(埼玉県行田市市立忍中): 完全快晴夜の都市ヒートアイランドと下向き長波放射場の同時移動観測
203. 大和田道雄(愛教大・地理) 気候変動に伴う都市気温の変化
204. 福岡義隆(広島大・総合科学): 傾斜地の地名に関する気候学的考察(その1)「陰地」と「日南」の分布則
205. \*福岡義隆・坪田博行・安田喜憲(広島大・総合科学), 南 利幸(広島大・院): 広島湾の海陸風と空中花粉に及ぼす影響について
206. 一ノ瀬俊明(東大・工): 一層ラグランジュモデルによる大気汚染現象広域化シミュレーション
207. \*栗田秀實・内田英夫(長野県衛生公害研), 光本茂記・植田洋匡・溝口次夫(国立公害研): 中部山岳地域におけるバックグラウンドオゾン濃度と黄砂現象
208. \*栗田秀實・内田英夫・広沢伊一郎(長野県衛生公害研), 植田洋匡(国立公害研): 中部山岳地域における大気汚染による視程の悪化
209. 山本 晋・林 正康・水野建樹(公害資源研): 飛行機によるエアロゾル広域観測——比湿とエアロゾル濃度分布の関係——
210. \*水野建樹・吉門 洋・近藤裕昭(公害資源研), 松川宗夫(気象協会): 関東地方における高濃度粉塵出現日の気象解析(2)
211. 近藤裕昭・水野建樹(公害資源研): 冬期日中の浮遊粉塵高濃度の気象条件に対する数値実験
212. 佐藤純次(気研・応用): 有限長ブルームにおける移流方向の拡散と濃度平均
213. \*大場良二(三菱重工), 柿島伸次(電力中研), 伊藤昭三(大阪府大): 静穏時排気上昇水槽実験

## 第3会場 気象力学・惑星大気

座長 辻 村 豊

301. 木村竜治・三沢信彦・\*丁 亨斌(東大・海洋研): 地表面の冷却によって生じる大気循環の流体実験(第2報)
302. 木村竜治・三沢信彦(東大・海洋研): 地表面の冷却によって生じる大気循環の流体実験(第3報)
303. \*小出 孝(気研・応用), R. Sadourny (LMD, Paris): 発散性2次元乱流の平衡解への緩和過程
304. 守田 治(九大・理): 回転流体中の傾圧波動のスペクトルについて
305. Priscilla Cehelsky(東大・理), Ka Kit Tung (Clarkson 大): 傾圧2層モデルの中での多重平衡と天候レジームの理論の批判的再検討
306. Priscilla Cehelsky(東大・理), Ka Kit Tung (Clarkson 大): 2層スペクトルモデル中での非線形平衡化と傾圧調節——非線形性を完全に取り入れた場合の効果——
307. 向川 均・\*矢野順一(京大・理): 準地衡風二層モデルのアトラクター次元
308. \*矢野順一(京大・理), G.R. Flierl (MIT): 地球流体中に、如何にして孤立渦をつくるか?
309. \*高山 大・松田佳久(気大): 球面上における地衡風調節と熱帯擾乱のふるまい
310. 山中大学(山口大・教育): 内部重力波の場としての惑星流体(第1報)——MAP観測結果の中層大気大循環論における解釈
311. 山中大学(山口大・教育): 内部重力波の場としての惑星流体(第2報)——浅水重力波束の場における不確定性
312. 酒井 敏(京大・教養): ロスビー波と内部重力波の共鳴による不安定
313. 中島健介(東大・理): 積雲群の内的・外的組織化の数値実験
314. 高橋正明(九大・理): 梅雨前線に伴う下層jetの力学モデル I. Hoskinsの理論を使って
315. 檜尾守昭(気研・台風): 下層ジェットと湿舌・降雨帯の関係
316. 佐藤正樹・松野太郎(東大・理): 降水を伴う大気の鉛直次元放射対流平衡
317. 阿部 豊(カリフォルニア工科大/東大・理): 地球表層部で炭素はなぜ少ないか——集積過程での大気=地表相互作用?——

## 大会第1日(5月18日)13時30分~16時30分

## 第1会場 雲物理・積雲対流 II

座長 松 尾 敬 世

116. \*水野 量・松尾敬世(気研・物理): 氷相を含む雲物理過程パラメタリゼーション——異降水粒子間衝突による成長速度式——
117. 村上正隆(気研・物理): 三次元降水雲モデルにおける氷相パラメタリゼーションの改良
118. 武田喬男・\*三隅良平(名大・水圏研): 積乱雲群に関する3次元数値モデリング——降水形成過程の違いの効果——
119. 猪川元興(気研・予報): 冬期日本海上でみられる対流性降雪雲の降雪形成過程について——数値実験——
120. 高橋忠司・岡村 孝(埼玉大・教育): 埼玉県南部における降雪の解析——1986年6月26日の降雪について——
121. \*城岡竜一・上田 博・菊地勝弘(北大・理): しゅう雪に伴う下降流に関する研究(IV)——成層状態からみた特徴——
122. \*高橋 劭・米山邦夫(九大・理): マルチセルと降雨機構
123. \*坪木和久・藤吉康志・若濱五郎(北大・低温研): 陸風前線に発達した SNOWBAND
124. 小西啓之(大阪教育大), 遠藤辰雄・坪木和久・若濱五郎(北大・低温研): 札幌における対流性降雪雲の力学的構造
125. 大口 修・大本隆太郎(北大・環境), 菊地勝弘・上田 博・谷口 恭・岩波 越(北大・理): 北海道羊蹄山周辺の降雨特性
126. \*岩波 越・菊地勝弘・上田 博・谷口 恭(北大・理): 北海道オロフレ山系の大雨——事例解析(4)——
127. \*小林文明・菊地勝弘・播磨屋敏生(北大・理): レーダーから見た北海道西岸羽幌沖の小低気圧の

形成過程(3)——100 km 程度の渦状擾乱の事例解析——

128. \*吉田 晋・菊地勝弘・遊馬芳雄(北大・理), 正田尚志(新日本気象海洋学会), 元木敏博(気象衛星センター): GMS から見た日本海北部の冬季の雲の特徴(2)
129. \*真野裕三・塩原匡貴・浅野正二・内山明博(気研・気候): ランドサット MSS 画像による雲のサイズ分布について
130. 武田喬男・\*服部文彦(名大・水圏研): NOAA 衛星データを用いた海上の下層雲の雲量の解析

## 第2会場 エクマン境界層・局地循環

座長 栗田 進

214. \*萩野谷成徳・藤谷徳之助(気研・物理): 熱帯域における大気境界層の観測(1)
215. 蒲生 稔(公害資源研): 関東平野の混合層(その5)
216. 蒲生 稔(公害資源研): 混合層上部に出現する積雲(その3)
217. 横山長之(公害資源研・筑波混合層研究グループ代表): 混合層中の鉛直拡散実験
- 218: 菊地時夫(高知大・理): 南極氷床の地形と卓越風——南極風系の認識に関する1970年代から1990年代への進歩
219. 北林興二・吉門 洋・近藤裕昭・横山長之(公害資源研): 複雑地形上の気流の観測(7)
220. \*栗田 進・岡田菊夫・成瀬 弘(気研・応用), 上野丈夫(高層気象台), 三上正男(気研・応用): 関東平野北部の霧に関して1985年12月9日を例にして
221. \*吉門 洋・近藤裕昭(公害資源研): 海風進入時の境界層構造——南関東の観測例——
222. 大原利真(計量計画研), 鵜野伊津志・若松伸司(国立公害研): 陸風前線通過時の乱流構造の変化について
223. 渡辺 明(福島大・教育): 湖盆地地形内の局地循環
224. 木村富士男(気研・応用): 伊那谷の南風
225. 佐橋 謙(岡山大・教育): 海風の収れん線のシミュレーション
226. 近藤裕昭(公害資源研): 大規模海風の理論的考察
227. 安田延壽・\*横田寛伸(気大):  $k-\epsilon$  型拡散係数モ

デルの山風への適用

228. \*高橋俊二・木村富士男(気研・応用): 局地風モデルの上部境界条件の改良

## 第3会場 気 候

座長 川村 隆一

318. 大畑哲夫・青黄 靖(名大・水圏研): チベット高原北西部の山岳域における夏季の地表面水収支・熱収支
319. \*山元龍三郎・岩嶋樹也(京大・理・気候), 星合誠(愛知学院大・教養): 海面水温の永年変動(第1報)——COADS の誤差の算定——
320. 中島幸久(気象庁・統計): 気候変動の統計的調査 I
321. 藤部文昭(気研・予報): 約10年の卓越周期を持つ本州東部の気温変動
322. \*渡邊朝生・花輪高雄(東北大・理): 冬の季節風指数(MOI)と日本の気温の関係
323. 近藤純正・\*上野英克・山崎幸雄(東北大・理): 昭和初期の東北地方太平洋沿岸域での大気と海洋の相互作用
324. 菅野洋光(都立大・地理): 北日本における夏季の気団
325. \*大和田道雄(愛教大・地理), 安田織江(創建コンサルタント): 本邦付近における切離低気圧の発現域とその移動経路
326. 山川修治(筑波大・地球科学): 東アジアの気圧配置出現頻度に見られる寒冷期・温暖期の特徴
327. 米谷恒春(国立防災センター): 日本における年降水量の不連続的な変化の様相
328. 村田昌彦・\*吉野正敏(筑波大・地球科学): 梅雨降水量の長期変動と地域性
329. 水越允治(三重大・人文): 梅雨の変動性にみられる長期傾向について
330. 大和田道雄(愛教大・地理), \*石川義二(広島大院), 中村達博(玉野総合コンサルタント): 最近の秋の異常渇水に関する気候学的研究
331. \*朴 惠淑・河村 武(筑波大・地球科学), 岩熊俊夫(筑波大・環境科学): 不快指数による世界の体感気候
332. 中西 朗(新潟県中条町立村松浜小): 集中滞留化現象期における瓢湖の白鳥最高羽数とハバロフスクの初冬寒気団との関係について(1)

## 大会第1日(5月18日) 16時30分~16時45分

## 第1会場 ポスター・セッション概要紹介

- P101. \*坪木和久・藤吉康志・若濱五郎(北大・低温研):  
降雪をもたらす温帯低気圧のメソスケール構造  
(I) Snowband と Generating cells
- P102. \*秋山孝子・武田重夫(気研・予報): Short-wave  
に伴う梅雨前線上のメソスケール雲システムの変  
動
- P103. \*金田芳彦・和田美鈴(気大): 対流性降水雲に及  
ぼす鉛直シアの影響
- P104. \*皆已幸也・林 和彦・土器屋由紀子(気大), 大  
山準一・伏見克彦(気象庁・海洋): 各地の化学  
成分の降水量について
- P105. \*土器屋由紀子(気大), 別所進一・池上三和子(気  
研), 功刀正行・西川雅高・溝口次夫(国立公害  
研), 原口紘丞(東大・理): 粒子状水銀の鉛直分  
布

## 第2会場 ポスター・セッション概要紹介

- P201. \*高橋俊二・木村富士男(気研・応用): 接地逆転  
の数値実験
- P202. \*松井一郎・杉本伸夫・笹野泰弘・清水 浩(国立

公害研): 風向風速鉛直プロファイル測定用コ  
ナルスキャン時間相関ライダー

- P203. \*林田佐智子・笹野泰弘(国立公害研): 大規模な  
物質輸送現象解明のための流跡線解析とその問題  
点

## 第3会場 ポスター・セッション概要紹介

- P301. 藤部文昭(気研・予報): 暖候期の東アジアにお  
ける雷雨発現頻度の日変化
- P302. 土屋 巖: 積雪底のメモリー型水溫計に記録され  
た“春一番”の温度効果
- P303. \*菊地時夫・香川和宏(高知大・理): ひまわりの  
雲画像にみられる南北対称性——「天気」巻頭写  
真を利用して——
- P304. \*中川清隆(上越教育大・自然), 伊藤成樹・川野  
名勇(越後電機): パソコンによる GMS・LAN-  
DSAT 画像間演算処理システムの開発
- P305. 広田道夫・梶原良一・新井芳子・宮本仁美・成田  
修(高層気象台): 日本上空における大気オゾン  
の長期変動(II) 1987年12月—1988年1月にお  
けるオゾン全量の減少について

## 大会第2日(5月19日) 9時15分~12時00分

## 第1会場 エアロゾル

座長 高村民雄

131. 小野 晃・小林愛樹智・石坂 隆・山中大学・林  
田佐智子・岩坂泰信(名大・水圏研): 成層圏エ  
アロゾル粒子の気球による直接採集とライダーに  
よる偏光消度の測定との比較
132. 甲斐憲次・内野 修・田端 功(気研・衛星観測),  
中村 一・高杉年且(気象庁・数値予報), 二階  
堂義信(気研・予報): 黄砂のライダー観測(3)  
——数値シミュレーションとの比較——
133. \*荒生公雄・秀島陽子(長崎大・教育): パーティ  
クルカウンターによる黄砂状態の判定基準
134. \*池上三和子・財前祐二(気研・物理), 金沢五寿  
雄(元気研), 伊藤朋之(気象庁): 対流圏エー  
ロゾルの航空機による観測
135. \*笹野泰弘・林田佐智子(国立公害研): 対流圏エ  
アロゾル分布のレーザーライダー観測
136. \*大和政彦・小野 晃(名大・水圏研): トロポポ  
ーズフォールディングを通過して対流圏に輸送さ  
れる成層圏エアロゾル(2)
137. 広野求和(九産大・教養): 火山エアロゾルによ  
る ENSO トリガーの問題点
138. \*秋吉英治・瓜生道也(九大・理), 藤原玄夫(福  
岡大・理): 南極エアロゾルの加熱効果とオゾン  
ホールII
139. \*岡田菊夫・田中豊頭・成瀬 弘・吉川友章(気  
研・応用): nucleation scavenging の効率の測定  
(II)
140. 成瀬 弘・岡田菊夫(気研・応用): 雲核スペク  
トルに及ぼすエアロゾル粒子の粒径分布について
141. \*大場良二(三菱重工), 山元理代(九州電力総合  
研): 海塩粒子発生量の推定
142. \*谷口 恭・菊地勝弘(北大・理): 北部ノルウェ  
イにおけるエアロゾル数濃度の変動

143. 李 東仁(北大・環境), 谷口 恭・菊地勝弘(北大・理): 風向別に見た札幌市およびその上空におけるエアロゾルの化学成分の特徴(Ⅲ)

**第2会場 接地境界層**

座長 三上正男

229. 林 泰一(京大・防災研): 大気接地層中の運動量の輸送過程について
230. \*千葉 修・寺井洋司・石川明弘(高知大・理): 接地境界層中での下向き気温変動量の特性
231. 千葉 修(高知大・理): 接地気層で観測された砕波に伴う乱れ
232. 千葉 修・\*石川明弘・<sup>1</sup>広田智佳朗(高知大・理, <sup>1</sup>現アジア航測): 海風前線での乱流特性Ⅱ(接地層での観測)
233. 近藤純正・\*渡辺 力・佐藤 威(東北大・理): 植生地の乱流輸送係数
234. 近藤純正・\*山崎 剛・渡辺 力(東北大・理): 植物群落の熱収支モデル——水田への適用——
235. 佐藤信夫(気象庁・数値予報), P.J. Sellers(メリーランド州立大): 大循環モデルへの植生の導入とその効果
236. \*大滝英治・塚本 修(岡山大), 岩谷祥美(日大): 海面上での二酸化炭素の乱流輸送
237. 光田 寧(京大・防災研), 文字信貴(大阪府大), 佐橋 謙・米谷俊彦・塚本 修・\*大滝英治(岡山大): 大気中の炭酸ガス濃度変動の国際比較観測(3)
238. 内藤玄一・八木鶴平(国立防災センター), 佐々木保徳・浅沼市男(海洋センター): 海氷上の大気乱流の観測(4)
239. \*平山 力(航空自衛隊・熊谷), 阿部成雄・引地功(防大・地学): ライダーによる霧の鉛直分布観測
240. 横井武長(米子高専): レーザービームによる大

気屈折率の係数の決定

**第3会場 解析・数値計算手法**

座長 増田耕一

333. 北岡龍海: 地点高層予報の可能性と高層観測(特に風, 気温)の問題点
334. 北岡龍海: 地点降水予報の可能性と高層気温観測の問題点
335. 飯田茂隆(竹中工務店・技研): 四国地方の冬季最低気温の予測について
336. 飯田茂隆(竹中工務店・技研): 近畿地方の冬季最低気温の予測について
337. \*里村雄彦(気研・応用), P. Bougeault (CNRM, France): DNI の局地モデルへの適用
338. 猪川元興(気研・予報): 山を考慮した非静水圧モデルの各種計算スキームの相互比較

**測器・観測手法Ⅰ**

座長 石原正仁

339. \*藤吉康志・若濱五郎・遠藤辰雄・山田知充・坪木和久・立花義裕(北大・低温研): 高高度の降雪強度計とレーダから求めた降雪の Z-R 関係
340. 中村健治(電波研), R. Meneghini (NASA/GSFC): 航空機搭載レーダによる日米共同降雨観測実験
341. 中村健治・岡本謙一(電波研): 熱帯降雨観測衛星(TRMM)計画
342. \*上田 博・藤井雅晴・城岡竜一(北大・理), 大本隆太郎(北大・環境), 谷口 恭・菊地勝弘(北大・理): 寒冷・降雪地におけるドップラーソーダの試験観測
343. \*横山辰夫・田畑 明・青柳二郎・鯉沼正一(気研): ドップラー速度の自動折り返し補正法
344. \*鈴木 修・青柳二郎・松浦和夫・横山辰夫(気研): ドップラーレーダのデータ処理の一方法
345. 菊地勝弘(北大・理): 特殊効果用フィルターを使った雪の結晶の顕微鏡カラー写真撮影法

**大会第3日(5月20日) 9時15分~12時30分**

**第1会場 中層大気**

座長 松田佳久

144. 木田秀次(気研・気候): 成層圏におけるプラネタリー波の崩壊について
145. 余田成男(京大・理): 周期的強制のある成層圏パシレーション・モデル

146. \*深尾昌一郎・手島由裕(京大・超高層), 山中大学(山口大・教育), 佐藤 亨・津田敏隆・加藤進(京大・超高層): MU レーダによって観測された対流圏・成層圏風速変動の季節変化
147. 廣岡俊彦(気象庁・数値予報): 上部成層圏における最近の気温変化について

148. 杉本伸夫・笹野泰弘・林田佐智子・中根英昭・松井一郎・竹内延夫・秋元 肇 (国立公害研) : 成層圏および対流圏のオゾン濃度の鉛直分布の測定を目的とする多波長差分吸収レーザーレーダーの製作
149. \*福山 薫・久保田順子・野呂恵子(三重大) : OH夜光の赤外写真撮影によるメソポーズ高度での内部重力波の水平構造の観測
150. \*佐藤 薫・廣田 勇 (京大・理) : 下部成層圏における小スケール内部重力波の MU レーダー多数ビーム観測
151. \*北村康夫・廣田 勇 (京大・理) : レーウィングゾンデ観測に基づく下部成層圏小規模擾乱の解析
152. 大野裕一・廣田 勇 (京大・理) : MU レーダー観測によって得られた強い鉛直風変動の解析 (3)
153. 吉澤宣之 (名大・水圏研) : 混合ロスビー重力波の東西波数選択性について

### 総観規模現象

座長 万納寺 信 崇

154. \*栗原和夫・瀬上哲秀・中村 一・高野 功・万納寺信崇・里田弘志・上野 充 (気象庁・数値予報) : 新アジア・ルーチン・モデル (ASM) の開発
155. 劉 発華 (筑波大・院) : 晩秋に起こる寒気団の急激な発達と雪の分布との関係について
156. \*立花義裕・遠藤辰雄・山田知充・若濱五郎 (北大・低温研) : 冬型気圧配置時の北海道の降雪分布型と総観場
157. 児玉安正 (東大・海洋研) : 梅雨前線帯と他の前線帯との比較 (その1)
158. 加藤内蔵進 (名大・水圏研) : 大陸の梅雨前線への南風強化とモンスーン
159. 栗原泰子 (都立大・研) : やませ時にみられるオホーツク海気団の変形について

### 第2会場 大気大循環

座長 佐藤 信 夫

241. 金久博忠・\*石井正好 (気大) : 気候次元モデルの解析
242. \*杉 正人・隈 健一・多田一正・長谷川直之・田宮久一郎・北出武夫 (気象庁・数値予報) : 気象庁新全球モデルの概要と予報特性
243. \*山田慎一 (気象庁・数値予報)・岩崎俊樹 (気象庁・数値予報, 現在 NCAR) : 気象庁全球モデル

における内部重力波 drag のパラメタリゼーション

244. 谷貝 勇・山崎孝治 (気研・気候) : 1983年1月の平均場シミュレーションに及ぼす gravity wave drag の効果について
245. \*尾瀬智昭・時岡達志・山崎孝治 (気研・気候) : 気象研 GCM に見られた Hadley 循環の変化の機構について
246. 谷貝 勇 (気研・気候) : MRI・GCM-I による雲のシミュレーション (1)
247. 野田 彰 (気研・気候) : 渦拡散係数から求められた非定常渦が停滞波に及ぼす効果
248. 岩嶋樹也・山元龍三郎 (京大・理・気候) : 低次順圧 (傾圧) 時間・空間スペクトルモデルの周期解と外力応答
249. 高藪 出 (気象庁・高層) :  $\beta$ -平面チャンネルにおける低気圧活動
250. \*木本昌秀 (気象庁・数値予報), Michael Ghil (UCLA) : 対流圏長周期変動の解析 (II) —— レジーム間の遷移
251. 佐藤康雄 (気研・気候) : 帯状平均東西風の局所時間変化の日々の変動に見られる順圧的な構造と南北伝播 (続)
252. \*大和田道雄 (愛教大・地理), \*山田光範 (愛教大・院) : 冬季における本邦付近の東西循環の変動
253. \*掛川英男 (筑波大・環境科学), 安成哲三・河村武 (筑波大・地球科学) : 南半球中・高緯度における大気循環の変動
254. \*渡部文雄・河原幹雄・林 久美 (気象庁・長期予報) : 熱帯域対流活動の季節内変動と日本付近の循環場 (5~10月)
255. \*露木 義・栗原弘一 (気象庁・長期予報) : 西部熱帯太平洋の対流活動の夏期北半球循環場への影響について
256. 鬼頭昭雄 (気研・気候) : 海面水温と日本の暖冬に関する数値実験

### 第3会場 放射・大気電気

座長 塩原 匡 貴

346. 小林隆久 (気研・応用), J.A. Coakley Jr. (NCAR) : 有限雲場の短波長反射特性
347. \*増田一彦・高島 勉 (気研・衛星観測) : 氷晶層の反射率と透過率

348. \*塩原匡貴・浅野正二・真野裕三(気研・気候): 層状雲の放射特性の航空機観測
349. \*内山明博・浅野正二(気研・気候): 相関k-分布法による不均質大気放射加熱率の計算について
350. 竹内義明(気象衛星センター): 偏光を含む放射伝達問題の球面調和関数を用いた解法
351. \*青木忠生(気研・物理)・王 光華(筑波大): マイクロ波の放射伝達に及ぼす大気の影響
352. \*柴田清孝・青木忠生(気研): 長波放射のパラメタリゼーション(Ⅲ)
353. 青木忠生(気研・物理): 高分解鉛直分布遠隔測定のための基本戦略
354. 水野芳成(気研・物理): 直達光と太陽周辺散乱光の測定によるエアロゾルのフェイズ・ファンクシヨンのパラメータ推定
355. 高村民雄(防大・地学): 東京・筑波地域の地表面反射率の測定
356. \*廣野幹彦・須田 剛(新潟大・工): CO<sub>2</sub> 5.2 μm 及び 10 μm 帯の吸収帯強度
357. \*北川信一郎(東京家政大), 大橋正次郎(東電病院): 歩幅電圧障害の実態と落雷に対する安全姿勢
358. \*竹内利雄・仲野 賛・河崎 善一郎・長谷 正樹・中田 晃(名大・空電研): 多重セル型雷雲の観測
359. 遠峰菊郎・道本光一郎(防大・地学): 冬季雷雲下における地表電界値に関する研究
360. 道本光一郎(防大・地学): レーダーエコーによる冬季雷の解析
361. 道本光一郎(防大・地学): 冬季雷の事例解析(落雷・航空機の被雷)

## 大会第3日(5月20日)13時30分~17時30分

## 第1会場 中小規模現象

座長 猪 川 元 興

160. \*鈴木和史・肆矢雄三(気象衛星センター): 衛星の赤外データによる降水強度推定(その1)
161. 謝 平平(京大・防災研): GMS 赤外・可視画像データと地上観測による雲と雨の関係について
162. 瀬上哲秀・栗原和夫・中村 一・高野 功・上野 充・万納寺信崇・里田弘志(気象庁・数値予報): 気象庁・新日本域モデル(19L-JSM)の概要
163. 平沢正信(気研・予報): 梅雨前線帯上の中間規模擾乱と降水系の数値実験
164. \*吉住禎夫・平沢正信(気研・予報): 梅面前線帯上の停滞した中規模降水域
165. \*岩崎博之・武田喬男・<sup>1</sup>近藤秀城(名大・水圏研, <sup>1</sup>現第二電々): 東シナ海上を移動するメソスケール雲群の構造と時間変化
166. 二宮洗三(気象庁・数値予報): 梅雨前線帯降水の南~北集中性の東~西差
167. \*岡村博文・田畑 明(気研・台風): 台風降雨帯の特徴的構造——T 8713の北西象限の降雨帯——
168. 石島 英(琉大): 台湾地形による台風地上構造変化の数値シミュレーション
169. \*深尾昌一郎(京大・超高層), 山中大学(山口大・教育), 佐藤 亨・津田敏隆・加藤 進(京大・超高層): MU レーダーで観測された COLD VORTEX-TROPOPAUSE FUNNEL 系近傍の風速変動
170. \*渡辺 明(福島大・教育), 住 明正・吉沢宣之(東大・理): Cloud Finger 周辺の大気運動
171. \*肆矢雄三・鈴木和史(気象衛星センター): 活発な対流活動を伴う低温雲域の発達衰弱について
172. \*横山辰夫・石原正仁・田畑 明・赤枝健治・榊原 均(気研): 沖縄地方における層状性降水の構造(ドブラー・レーダーによる観測)
173. \*榊原 均・石原正仁・田畑 明・赤枝健治・横山辰夫(気研): 亜熱帯の寒冷前線に伴う降水系の構造
174. 赤枝健治・田畑 明・石原正仁・横山辰夫・榊原均(気研): スコールライントタイプの対流雲群に伴うガストの時間変化
175. 石原正仁・田畑 明・赤枝健治・横山辰夫・榊原均(気研): 亜熱帯 SQUALL CLUSTER の形態とその内部構造
176. \*中澤 栄・安富裕二(気大), 田畑 明・榊原均・石原正仁・赤枝健治(気研): 寿命の長い, 分裂を伴うシングルセル型対流雲の構造の解析
177. 上野健一(筑波大・地球科学): 降水強度分布の変化と地形との関係——春の温帯低気圧通過の場合——
178. \*林 宏典・浅井富雄(東大・海洋研): 冬季にお

ける関東地方の局地的悪天について

179. 二宮洗三(気象庁・数値予報): 冬期寒気内中間規模擾乱(Polar Low) —— 序報 ——

## 第2会場 熱帯気象・台風

座長 嶋村 克

257. \*宮原三郎・呉 登華・諸岡浩子(九大・理): 季節内振動の局所的構造を求める試み
258. 伊藤久徳(和歌山大・教育): 季節内振動における波数選択の機構
259. \*高藪 縁(国立公害研), 新田 勅(気研・台風): GMS 赤外ヒストグラムデータを用いた熱帯域クラウドクラスターの解析(I)
260. 住 明正(東大・理): 一樣な熱帯海洋上での積雲群の集団運動について
261. 邊田有理江(京大・防災研): 熱帯低気圧の発生初期の状態について
262. 今井一郎(東海大・海洋): ENSO と台風
263. \*大島 隆・内田裕之・浜田忠昭・小佐野慎悟(気象衛星センター): 台風域内における衛星風と海上風との比較
264. \*内田裕之・大島 隆・浜田忠昭・小佐野慎悟(気象衛星センター): 短時間間隔衛星風による台風域内の風の場の推定
265. \*萩原武士・小佐野慎悟(気象衛星センター): 衛星データによる台風の強風域・暴風域の推定
266. 阿部成雄(防大): 台風の非対称性と発達
267. 大西晴夫(気研・台風): 台風の非対称構造から生じる中心の蛇行運動について(2)

## 熱帯気象・気候

座長 鬼頭 昭雄

268. 安成哲三(筑波大・地球科学): 熱帯太平洋の海水温に対するインドモンスーンの影響
269. 山崎孝治(気研・気候): インド洋の海面水温偏差が熱帯大気に及ぼす影響についての数値実験
270. 川村隆一(筑波大・水理実験センター): 西部太平洋における海水温の季節内変動および年々変動に対する大気の応答・強制
271. 新田 勅(気研・台風): 西部太平洋における雲量変動の特徴
272. \*井上豊志郎・村上勝人(気研・台風): 西太平洋における雲型別雲分布の特徴
273. 丸山健人・常岡好枝(気研・予報): 1987年の50 hPa における QBO 東風相の異常に短い継続時

間とエル・ニーニョ現象との関係

274. 村上多喜雄(ハワイ大・気象): 偏西風バーストと1982/83 ENSO
275. 時岡達志・遠藤昌宏・\*長井嗣信(気研): 大気・太平洋結合モデルにみられる赤道域東進擾乱
276. 田中 実(気研・予報): ブラジルにおける降水量の年々変動と大気循環との関係
277. 篠田雅人(東大・地理): サヘルにおける干ばつ時の偏東風波動擾乱

## 第3会場 大気化学

座長 土器屋由紀子

362. 伏見克彦・小川 完(気象庁・海洋), 林 洋一(長崎海台): 綾里における降水・降下塵の化学成分
363. \*廣瀬勝己・青山道夫・杉村行勇(気研・地球化学): 筑波の大気浮遊塵中で観測されたチェルノブイリ原子力発電所に由来するプルトニウム同位体と<sup>90</sup>Srについて
364. 広田道夫(高層気象台), 牧野行雄・池上三和子・堤 之智(気研・物理): 日本上空におけるCH<sub>4</sub>の分布
365. \*堤 之智・牧野行雄・佐々木 徹・忠鉢 繁(気研・物理): 対流圏オゾンの航空機による観測(1987年12月8日の例)
366. \*財前祐二・池上三和子・牧野行雄・堤 之智(気研・物理): 航空機によるエーロゾルの空間分布の測定~1987年12月の例~
367. 田中正之・中澤高青・\*荒川 隆(東北大・理): 南北一鉛直2次元モデルを用いた地表面におけるCO<sub>2</sub>フラックスの評価
368. 佐々木 徹(気研・物理): CH<sub>4</sub>, N<sub>2</sub>O の増加を考慮したO<sub>3</sub>変化の予測
369. \*深堀正志・牧野行雄(気研・物理), 田中正之(東北大・理), 川口貞男・山内 恭(極地研): 昭和基地における大気微量成分の赤外分光観測(II)
370. 松原広司・土井元久・上窪哲郎・岡田憲治(気象庁・観測), \*川口貞男(極地研): 赤道域から南極域までの船上オゾン観測結果(1) —— オゾン全量値の緯度変化 ——
371. 忠鉢 繁(気研・物理), 梶原良一・近藤幸治(高層気象台): 南極昭和基地における「月光によるオゾン全量観測」
372. 岩坂泰信(名大・水圏研): 成長したエアロゾル

粒子の下降運動とオゾンホール

373. \*旭 満・牧野行雄・忠鉢 繁・佐々木 徹・堤之智(気研・物理)：昭和基地におけるオゾン全量と高層観測資料との関係

### 測器・観測手法 II

座長 笹野 泰弘

374. \*内野 修・田端 功・甲斐憲次(気研・衛星観測)：マルチカラーライダーによる気温計測技術の開発(I) シミュレーション
375. \*内野 修・田端 功・甲斐憲次(気研・衛星観測)：MRI マークII可搬型ライダーの開発
376. \*平山 力(航空自衛隊・熊谷), 阿部成雄・引地功(防大・地学)：減衰を考慮して  $Y(r)$  補正値を求める方法

377. \*板部敏和・石津美津雄・有賀 規・五十嵐 隆(電波研), 浅井和弘(東北工大)：航空機搭載ライダーによる都市部(東京)での大気境界層エアロゾル分布測定
378. 柴田 隆・一森誠也・前田三男(九大・工)：エキシマレーザーオゾンライダーの開発
379. 高山陽三(気研・衛星観測)：3.7  $\mu\text{m}$  天空放射観測
380. \*高山陽三・高島 勉・増田一彦・鯉沼正一(気研), 佐伯理郎(気象庁), 小泉深吉・佐藤英男・前田惟裕・新井康平・若林裕之・田崎一行(NASDA)：海洋観測衛星搭載可視熱赤外放射計による観測

## 「第2回梅雨研究会」のお知らせ

日 時：1988年5月21日(土)(気象学会最終日の翌日)  
9時30分～12時30分

場 所：東京大学理学部地球物理学教室大講義室(3階)  
テーマ：梅雨前線上の中間規模(meso- $\alpha$ スケール)降水系と小低気圧の特徴と形成維持機構

プログラム(タイトルは仮題)

1. 東 善広(名古屋大学水圏科学研究所)：「日本付近に現われるクラウド・クラスターの特徴——特に梅雨前線を中心として——」

2. 多田英夫(東京大学海洋研究所)：「1987年7月に

みられた meso- $\alpha$  降水系の事例解析」

3. 平沢正信(気象研究所予報研究部)：「梅雨前線帯上の中間規模擾乱と降水系の数値実験」

4. 二宮洸三・栗原和夫・瀬上哲秀(気象庁数値予報課)：「梅雨前線上の中間規模降水系の予報実験」

5. 総合討論

世話人：加藤内蔵進(名古屋大学水圏科学研究所)

〒464-01 名古屋市千種区不老町

TEL. 052-781-5111 内線 5742